

第1回 校長会議あいさつ

R8.4.2 稲垣

やわらかな日差しに花々をゆらす風。心浮き立つ季節を迎えました。学校では、新たなメンバーを迎えて、新学期への期待感に満ちていることと思います。子どもたちのために全教職員が一丸となって、気持ち良く教育活動に邁進できるようにご配慮ください。良い学校をつくるためには、教職員が前向きに仕事のできる環境が不可欠です。そのための要素を列挙してみます。

○笑顔の職員室は、先生方の安心感と向上心を醸成します。

校長をはじめ、リーダーに支えられている安堵感を浸透させましょう。不安を翌日に持ち越させないように、困っていたら必ず助けてください。誰一人も孤立させないように、職員間の絆を強めましょう。湯沸かし室のほっとスペースの配慮も大切です。教頭はじめ役職者と共に力と心を合わせて、工夫してください。

○校長が夢を語り、教育目標を共通理解することが教職員集団の一体感を生みます。

「子どもたちに、このような心や力を育てたい。だから、こういう指導を大切にしていきたい」と語りましょう。行事も式典も現職教育も、全てはそのための手立ての一つです。私たちの願う子ども像のキーワードは、「新たな能力を取り込む力」と「忍耐力(心幹)」です。

○職員間の適切な相互評価を育むことが、学校力を向上させます。

頑張りたい人が頑張れるように、また頑張った人が正当に評価されるように。心意気や明るさも能力のうちですし、目立たぬところで頑張っている人を見逃さないようにしたいものです。

○叱り忘れはあっても、褒め忘れは避けたいものです。

叱ることは後で指導できますが、褒めてモチベーションを向上させることはタイミングが大事です。年齢や職責に気を配りながらも、皆が立場で気持ちよく動けるようにしましょう。

以上ですが、言うは易し行うは難しでもあります。校長先生方がそれぞれの経営ビジョンとキャラクターをもって努力していただければと思います。

教育改革のうねりの中で、幾つもの課題を抱えている学校現場です。一方で、働き方改革にも取り組まねばなりません。学校教育の信頼感を維持するためには、働き方改革も学校教育を改善するための方途の一つとして捉えて進めるべきです。目標と手立てを混同しないようにご配慮ください。バランスの難しい学校経営が求められます。教育委員会といたしましても、全力で学校を支えていきますので、どうか頼りにしていただきたいと思います。

間もなく登校してくる子どもたちをよく見てあげて、どの子にとっても楽しく、わくわくするような学校生活になるように、全職員による心遣いをくれぐれもお願いいたします。校長先生方のご健闘により、本市の全ての子どもたち、保護者、地域の皆さんの笑顔が溢れることをお願いして、年度冒頭の言葉といたします。